



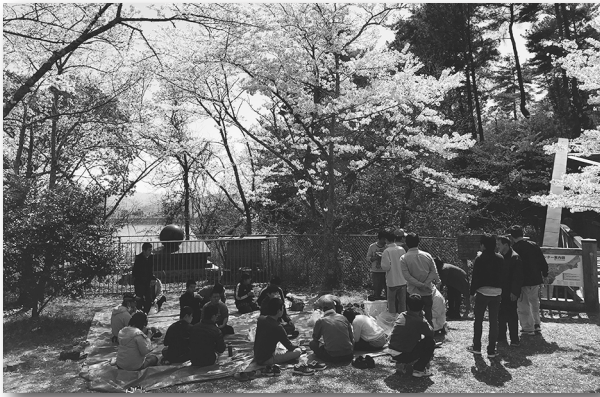
まぎの郷 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

April 2018

ソーシャルファームピネル/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/けいじん舎/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター「つれもて」/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/おぎピース/障害児者サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/叶夢向/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637
〒640-8301 和歌山市岩橋643 <http://www.muginosato.jp>



はぐるま共同作業所和の社お花見 3.30 (金)



くろしお&とてのお花見交流会 4.4 (水)



はぐるま共同作業所お花見 4.4 (水)

私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



わされん第2ブロック 合同防災訓練

去る3月9日にわされん第2ブロック合同防災訓練をおこないました。参加者は、わされん13会員事業所160名という大規模な訓練となりました。

10時30分より各事業所において、南海トラフ大地震が発生したという想定のもとに避難訓練、地震によって発生した火災消火訓練をおこないました。そして仮避難場所と設定した琴の浦にある県子ども・女性・障害者相談センター体育館へ順次集合し、アルファ化米などの試食をおこないました。

はじめてアルファ化米を食べる人が多く、「固い」「思ったより食べれる」「みそ汁を入れたら美味しい」など様々な感想がきこえてきました。

その後は、各事業所対抗による、災害時に必要なものを挙げてゲーム感覚でおぼえる防災ピクニックをおこないました。その他、体育館に布団を敷き寝てみる避難所体験、緊急時に使える紙の食器作り、実際の被災現場を視覚で確認



して防災意識を高める被災地の写真コーナーをみんなでおこない解散しました。

こうした大規模な訓練は、わされん第2ブロックでもはじめてであつたため、参加されたみんなからも貴重な体験ができた感想をいただきました。

東日本大震災から7年が経ち、3・11には「この日を忘れない」というキーワードが目立ちます。しかし実際には、「この日だけを忘れない」では防災意識も薄れ、訓練もあるそかになつていきます。結果、助かる命、また助けられる命が守れないことにつながります。常に防災意識を持ち続けることは難しいですが、定期的な訓練や学習をおこない、利用者や職員の命を守っていくことをより深く考えていく必要を感じた一日でした。

またこの訓練のためにご協力いただいた関係者の皆様はこの場をかりてお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

(麦の郷居住福祉事業所 武田 賢二)



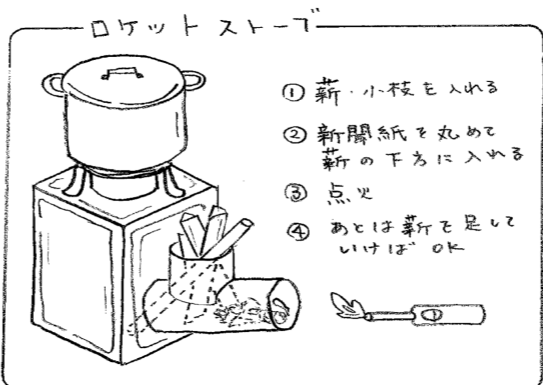
くろしお防災学習

1月31日、12名の職員が参加し、防災をテーマに学習会を行いました。まずは、障害者の防災についてのサイトの紹介と、防災知識や対策のチェックシートにチャレンジ。日常生活の中にも防災意識を取り入れたいと再確認しました。

次に、ライフラインが途絶えた想定として、屋外での炊飯実習です。メニューは、
①玄米(ロケットストーブで備蓄玄米を炊く)
②ツナ缶ごはんツナ缶のオイルを利用し、白米を炊く

③お味噌汁(カセット発電機で湯を沸かし、インスタント味噌汁に)

非常時の設定なので、事前に準備や役割分担の話し合いをせずに取りかかり、約1時間後に試食予定です。結果は①はじめて玄米を食べる職員からも「おいしい」の声。少



し固めに炊き上がりました。②ツナ缶のオイルは約30分ほど燃えましたが、選んだ鍋が大きすぎ、おかげに。③はじめて使用する発電機にカセットボンベをセットし、レバーをいくら引いてもスタートせず…調べてみるとエンジンオイルが必要とのことで、今回は断念しました。最終的には予定した食材をおいしく食べるこ



とができ、また、事前確認と備えの大切さを実感することができた実りある学習会となりました。

大切な命を守るために、私たち一人一人が意識を持ち、学び、備えていきたいですね。

(くろしお作業所 岡本 あゆみ)

新事業所名 叶夢向(かなた)

麦の郷ウエス事業部は「くろしお作業所分場め組」として約8年余り活動してきましたが、

(叶夢向 辻岡 敦子)

今年度から独立し就労継続支援B型事業所として新たに施設名も変更「叶夢向」という名前でスタートを切りました。ウエス事業はおよそ30年の歴史があり、今もなお和歌山県内沢山の会社からウエス製品の注文を受け、毎日フル稼働して生産しています。



今回、メンバーみんなで新しい施設名を考える際、話し合いをしました。みんな、それぞれの夢があります。お給料を貯めて、家族とディズニーランドに行きたい。もっともっと力をつけてA型事業所で働きたい。そんな、一人一人の夢に向かって進んでいこう！こうして「叶夢向」が誕生しました。

みんなの夢に向かう思いを大切に、これからも事業所一丸となつて、しっかりと仕事に取組んでいきます。そして、メンバーが作業所に来てホッとできる、安心できる場所としてあり続けられるよう努めていきます。どうぞ、皆さんこれからも宜しくお願いします。

むぎ・わくわくレポート4

うちの支援センターを一言で表すなら「優しい居場所」です。

体調が優れない職員や仲間がいると、どこからともなく「大丈夫？どうしたん？」という声が聞こえてきます。髪を切るというね！似合ってる！と言います。タオルが濡れていたら変えてくれたり、たまっている食器があったら片付けてくれます。そして、「ありがとう」の言葉があふれます。

日常の小さなことに気づき、お互い言葉をかけて合ったり、「ありがとう」を伝えたり、なにも言わずに自然と行動すること、簡単なようで実はなかなかできないものです。そのひとつひとつに相手思いいやる優しい気持ちがあるから、みんな自然にできています。支援するものされるもの、障害のあるなしにかかわらず人と人の関わりとして大切なことは日々の何気ないことの積み重ねなのだと思えます。皆さんの仲間の居場所でもあると同時に、私にとっても大きな「居場所」になっていると感じさせてくれる優しい場所です。

(紀の川生活支援センター 石橋 由季子)



《第16回》 和歌山県作業所問題 研究交流集会

2月10日に田辺市Big・Uで開催された「和歌山県作業所問題研究交流集会」に参加しました。

午前中は弁護士の方の山崎和友先生の講演「みんなが日本国憲法を考えよう」を拝聴しました。普段テレビなどで憲法の話聞いても、あまりよく分からないのですが、今日の講演はすごく良く理解できました。それは講演用のパンフレットに「現行憲法と改正草案との対比表」があり、それに沿って話をしてくれました。

午後からは分科会で、僕が参加したのは「仲間の交流会」でした。テーマの「もしもあなたに魔法が使えたら、どうしますか？」を考えて、みんなで発表しました。

僕は、「病気の父親の痛みを無くしたい」「世界中の核兵器を無くしたい」と発表。ほかのみんなも「早く仕事について親に楽をさせてあげたい」や「生活基盤を安定させて、お母さんを安心させたい」等々、家族関係の願いはやっぱり多かったですね。



あと「安心して歩ける世の中にしたい」など、平和系も多かったです。「平和でない、支援も自立も幸せもない」と訴えている仲間の言葉には深く納得しました。

他には、「動物になってかわいがってもらいたい」や「金持ちになって楽をしたい」「前科者でも普通に暮らせる世の中にしたい」「歌手になりたい」「女子アナになりたい」等々、さらには、「障害年金の基準を下げてほしい」や「薬を増やしてほしい」といった意見もありました。

色んな意見を聞いて、楽しい時間でした。ありがとうございました。

(麦の郷印刷 辻岡 孝浩)

麦の郷全職員研修会 麦の郷職員研修会について

麦の郷教育研修委員会では例年数々の研修会を実施しています。毎回、職員に新しい発見や気づきの中で、日々の実践に役立ててもらえたらいいなと、会議を重ね趣向を凝らしながら研修テーマを決めています。

今回も、次はどんな研修会を開きましょうかという事で、立命館大学教授でもある副理事長の山本先生にもお力添え頂きテーマを考えました。

今回はある事業所の実践を参考に、フィク

ションによる家系図を作成し、どのような支援を考えられるかを職員皆さんと一緒に考えてもらおうと山本先生に資料作りをして頂きました。



1月20日、北コミュニティセンターにて開催した研修会では、今までの功績によって表彰を受けられた前紀の川生活支援センターセンター長の藤本さんよりお話を頂き、100名もの参加で、10組にグループ分けをしてワークシヨップを行いました。

研修では、破天荒な事例で皆さん混乱しつつも真剣に考え、意見を飛び交わしていました。とても100名もの人数で行っている研修という感じではなく、一人ひとりが参加し意見を述べ、アイデアを出していました。まるで、本当の母と子の問題として、いかに支援する事が最適なのか、どう支援に結び付けていけばいいのかを、どの班も同じように真剣に考えていたのが印象的でした。

研修の最後に、山本先生よりマスメディアへの対応を、法人として全職員で共有し、今後の実践上の統一方針とする文章を紹介下さいました。人権と権利の保障を大切にす麦の郷として本当に気を付けなければならない事だと痛感しました。

次回の研修会にもたくさんの方の参加を願っています。(事務管理部 中野 優子)

わかれん 次代を担う職員育成 プロジェクト研修

等を済ませた後は第2部の懇親会。普段なかなかゆっくりと話す機会も少ない皆さんともたくさん交流を持ちました。語りあふ不足になってしまった方々もあられたか…。

そして、2日目も朝からグループディスカッション。実践や理念について大切にしていること・目指したいところ等を、それぞれの視点で出し合い、深め合いました。



全貌はこの紙面では到底まとめきれませんが、想いを語りあい議論できる集団や、忙しい日常の中でつい目先のことだけを考えて見失いがちになってしまふ大きな視点を持つことの大切さを再認識する機会でもありました。悩みやジレンマも共有でき、思ったことを口に出していける関係。社会の動きや矛盾を見極める力や運動の力。そして楽観視できない情勢の中であっても「でも、きっと何とかかなる！」と、想いを共有して進んでいけるのが、麦の郷らしさでもあるのかも。様々なことを共有し再認識する中で安心とパワーをもらい、今後の実践につなげていきたいと思えました。

(和歌山生活支援センター 上田 路子)

このプロジェクトは、平成29年10月～平成30年5月までの8ヶ月間、経済学・法学・哲学等障害福祉だけでなく多種多様な内容で講義を開催してくれています。初日は憲法と法律の講義でした。憲法改正によって日本はどの様に進んでいくのか、そして新設された憲法の意味は何を目的としているのか。講義を受けるまで深い意味が理解できていませんでしたが、憲法で守られてきた私たちの人権や生活保障を変えられることがあつてはならないと強く思い、改めて憲法改正の問題を重く捉えることが出来ました。3月までに10講義を受けさせて頂きました。3月まで、現役アナウンサーの講師による『伝える力』の講義が印象に残りました。言葉の強弱のつけ方や速さなど、伝え方のプロならではの、正確にわかりやすく情報を伝えるという講義でした。この講義のあと、仲間への声かけ一つをとっても、言葉による伝え方を今まで以上に意識するようになりました。私はこのプロジェクトに参加できたことで多様な面で視野を広くもてるようになったように感じています。今は5月の終了式まであと少しという安堵感と、もう終わってしまうという残念な気持ちがあります。今回参加できたことに感謝し受講した内容を自分なりに考え、そして伝えて行きたいと思えます。(事務管理部 坂口 幸代)

「やっぱり作業所っていいな」としみじみと感じるものでした。その後、麦の郷が大切にしていきたい理念についての議論をおこない、1日目の難しい話は終了。夕食・入浴



麦の郷 中堅・幹部職員研修会 職員学習会に参加して

3月17日～18日、職員(管理者)研修会がおこなわれ、麦の郷各部署の管理者を中心に約30名の職員が集まる中、素敵な2日間を過ごしてきました。

内容は、「麦の郷職員としてのものの見方、考え方」というテーマでの山本耕平先生の講義に始まり、障害福祉を取り巻く情勢や問題点等も含んだ基調報告と続きました。そして、ラ・テールからの実践報告は現場の様子がしっかりと伝わってくる内容で、作業所での寄り添いや関係づくり、支えあい、皆が少しずつ成長していく過程を大切にしている実践に「やっぱり作業



合同レクリエーション 地域活動支援センターI型 ソフトバレーボール大会

2月23日(金)岩出総合体育館に4ヶ所の地域活動支援センターI型が集まりソフトバレーボールやドッジボール、バドミントン、unnoなどで頭や体を使ってリフレッシュしました。

和歌山市から地域活動支援センター 櫻と麦の郷和歌山生活支援センターが、岩出市から岩出障害児者・相談支援センター、紀の川市から麦の郷の川生活支援センターの参加でスタッフ・メンバー総勢23人がごちゃ混ぜのチーム編成で交流を図りました。

普段出会えない人との時間を有意義に過ごせました。

というのもこの合同レクリエーション、実は3回目で『あっ！この前いた人や!!』とか『まだおなじチームやな!』など等、顔見知りになっていたので仲間同士での会話や他の事業所のスタッフとメンバーの会話も弾むようになってきています。

事前に4ヶ所の支援センタースタッフが打ち合わせを行い、当日を迎え、後日次の交流会をより良くする為の反省会と職員交流会や情報収集を行っています。

今後は対象圏域を増やす事も検討しながら年2回の実施を安定させ、この交流会を仲間が楽しみにしてくれるようなものにしていきたいと思っています。

（くろしお作業所 鈴木 重徳）

こじか園生活発表会

2月10日、こじか園で生活発表会を行いました。生活発表会は、1年間の保育のまとめとして今まで培ってきた力を保護者、関係者、職員みんなで確認し合う場と考えています。



3つのグループごとに子どもたちの好きなお話を題材に、日々の遊びの中で、子どもたち自身が楽しめるものを探り、お話し遊びとして保育の中で散歩や色々な場面楽しんで遊んだものです。今年はとても寒い日が多く、インフルエンザが流行ったり、全員そろっての取り組みにはなりませんでした。発表会当日は、5人が参加できず残念でしたが、5歳児さんた

思っています。

(和歌山生活支援センター 木下 裕子)



友達たくさんできました。



バレーは久しぶりで1試合目勝った。



大満足!!
参加できてよかった。



楽しかった。
もう少し活躍したかった。

第41回 つながり文化祭 交流レク

3月4日、「障害児者家族のつながりを広める文化祭(以下、つながり文化祭)」が、和歌山県立体育館で盛大に開催されました。つながり



ちは園の代表としていろいろな出演があったり、お母さんたちも子どもたちにお話しを練習してくれていたたり、みんなで作ってきた発表会になりました。発表会後も発表会で遊んできたお話し遊びで遊んだり、今年も子どもたちにとって、とても素敵な発表会になりました。

(こじか園 浦上 武史)

青年学級40周年イベント わたしたち 輝いているよ!!

「まあー、綺麗!」「わー、格好いい!」なんと見事なファッションショーで会場全体が歓喜に湧きました。3月24日(土)和歌山市民会館市民ホールにて青年学級すばらしき仲間たち(以下、青年学級)主催、設立40周年行事「すばらしき仲間たちフェスティバル」が開催されました。青年学級の仲間たちを含め、家族や関係者の100名ほどの参加者で40周年を楽しく祝いました。普段とは違い、特に女性の仲間たちはこの日が近づくとテンションも上がり美容室に通い当日を迎えた方もいる



文化祭は今年で41回目を迎え、暖かく天気も良く、約2000人の方が参加されました。模擬店や手作り製品の販売、作品展示や体験コーナーなど、様々なコーナーでは多くの人が集まり、会場のどこも笑顔で活気に溢れていた一日でした。

さて、くろしお作業所は、青年学級すばらしき仲間たちと一緒に、毎年、交流レクリエーションを担当させていただいています。交流レクリエーションとは、歌や劇・スポーツなど、エンターテインメントに精通されている方をお招きし、仲間の皆さんと一緒に楽しく過ごすレクリエーションの時間です。昨年の交流レクでは、和歌山県のシンガーソングライター 数下将人さんに、楽しいライブをしていただきました。

今年は神戸にある「社会福祉法人かがやき神戸」という事業所から、「べりいと」というクラウン(道化師)のチームが来てくれました。このチームには、知的に障害のある方、身体に障害のある方、心に病をもつ方、発達障害といわれる方、さまざまな障害のある人たちがいますが、ステージで演じる姿は輝いており、会場全体を笑顔にし

ほどこで、レッドカーペットを歩く姿はとても華麗で優雅でした。



青年学級は、1976年6月に設立され、障害のある方の当事者交流グループで月に2回土曜日の夕方に集い交流を深めています。当時伏虎中学校の特別支援学級の卒業生9人の仲間たちの願い「みんながバラバラになると寂しい、もっと勉強したい!」と、気軽に集まれる場として担任の前川尚子先生が設立されました。先生は、ただの同窓会ではなく、障害のある方が寂しさや悩みが共有でき学習もできる発達保障の場「生涯学習の場」づくりをめざしました。運営はすべてがボランティアで、麦の郷や多くの方々に支えられて仲間たちの輝ける場が維持されています。先生は13年前に他界されましたが、いつも天から見守ってくれているので一番喜んでのことでしょう。

今回も多くのみなさんのご協力により成功できたことに深く感謝申し上げます。今後も青年学級はすばらしき仲間たちと共に輝き続けていきます。

(障害者就業・生活支援センター「つれもて」

鈴木 栄作)

助成ありがとうございました

はぐるま共同作業所ラ・テール

赤い羽根共同募金様から、ホットパックの機械を頂きました。ありがとうございました。ラ・テールは、幅広く色々な商品を製造しています。

大豆をまるごと使ったお豆腐、大豆のパウンドケーキ、おかき、わらび餅などの製造や、農産加工等の仕事をしています。農産加工では、野菜や果物のペーストを作ったりしていますが、今までは、温かいペーストを真空にする事が出来ずに、冷ましてからパックをしていましたので、とても時間が掛かっていました。ホットパックを頂いてから熱いペーストを、熱いうちに真空パックが出来るようになったので、効率も良く衛生面でも安心出来るようになりました。これから、お世話になっている農家のみなさんと、新しい加工品を考えていく際、ホットパックが大活躍すると思います。ありがとうございました。(森 亜紀)



ソーシャルファームもぎたて

「消毒散布機械を助成頂きました」

公益財団法人みずほ福祉助成財団様より助成頂き、平成29年度助成事業『南高梅栽培に必要な消毒散布機の整備』として消毒散布機械を整備しました。新しい機械は、ホースの自動巻き上げができるなど消毒の準備から散布、片付けまでを少人数で素早く行えるようになり作業効率が格段に上がりました。

ソーシャルファームもぎたてでは、農作業を通して障がいのある方の「働く」を支援しています。更に農作業の作業効率を考え、働きやすい環境作りや賃金向上に努めたいと思います。助成頂き本当にありがとうございました。

(中原 力哉)



はぐるま共同作業所

平成29年度和歌山市社会福祉施設等施設整備費補助事業の助成を受けて作業所の修繕工事を行いました。

きれいになった作業所で、みんな気持ちよく過ごしています。

ありがとうございました。

(大垣 麻実)

名前が変わりました! 恒例 西和佐地区・麦の郷の「春祭り」開催

これまで紀伊風土記の丘の小高い丘の上で開催されていた「西和佐地区と麦の郷のさくら祭り」が、地域の皆さんの安全を第一に考え今年から西和佐小学校体育館での定例開催となり、集いの名称も「春祭り」に変更となりました。

4月7日(土)当日、前の週のほかほか陽気は影をひそめ少し肌寒いなか、西和佐地区連合自治会山田会長のあいさつから春祭りがスタートしました。

多数ご出席いただいた御来賓から御祝辞をいただき、少々緊張の式典終了後はお待ちかねの歓談タイムとなります。麦の郷みんなでおどり隊のよさこい踊りで華を添えていただき、西和佐小学校の入学式用に体育館壁に大きく彩られた桜の花びらを見ながら、地域の皆さんと麦の郷の面々が来賓の皆さんも交えて楽しくお弁当を食べる姿があちらこちらに広がりました。食事が落ち着いたころカラオケやビンゴゲームでお祭りムードもいい感じになってきます。お腹も満腹、和気あいあいの中ほどなく今年の春祭りも無事終了です。

地域の皆さんとの温かい交流の場がこれからも永く続きますように…。

(和の杜 大中 一)



むぎのひと



むぎピース
岡本 悠

むぎピースでは“はるかちゃん”と呼んでもらっているスタッフの岡本です。

麦の郷 むぎピースにお世話になって5年目を迎えようとしています。

むぎピースでは自立訓練事業、就労継続B型事業をしています。

みんながみんなを尊重できるそんなメンバーから教えてもらうことがたくさん! 誰でも得意、不得意はあるけれど少しずつ自分のペースで進んで力を付けているメンバーを見て私も頑張ろう! と勇気づけられます。自分のしたいことにチャレンジしたり、少しでも一人じゃないと思える居場所としてむぎピースがあればいいなと思います。

何もわからない時からみなさんに教えてもらい助けてもらっていて、不器用ながらにここまで頑張れているのは皆さんが支えてくれているお陰です。たくさんの出会いに感謝です。ありがとうございました。

これからも出会いを大切に、メンバーと共に成長していきたいです。